

計画案の文言については、概ね良と考えます。気になる部分を申し添えます。

○就労を含めた高齢者の社会参加の支援

- ・高齢化社会の中で、たいへんいい視点だと考えます。
- ・心配なのは、シルバー人材センターだけでは荷が重く、軌道に乗るまでは市の支援が必要だと思います。
- ・高齢者だけでなく、60代後半の退職した男性の層がどう地域活動に参加してもらえるのか、なんらかのきっかけづくりの仕組みを構築することが、コミセンなどの人材不足を解決し、退職後家にひきこもる人を少なくする重要な施策になると考えます。

○子育て世代への外出支援

「地域公共交通の利用に不便を感じながらも、レモンキャブやリフトタクシーつながりの登録対象とならない高齢者等に対して、地域公共交通と福祉交通の連携等による対応を検討する」という第六期長期計画・調整計画で記載いただいております。課題認識はしていただいているけれども、高い水準の地域公共交通ネットワークが保たれているという理由で、高齢者や障がい者は、結局タクシーを利用してくださいということになっているので、二次調整において、子育て世代にだけタクシー券が配られるということになると、バランスが取れないのではないかと考えております。高齢者や障がい者についても、同じく考えていただきたいと思います。

○今後の学校改築のあり方の検討

- ・「地域で子どもたちを育てるという視点が大切」ということは、改築だけではなく、部活動や学習支援など学校全体で大切な視点であると思います。
- ・学校改築については、小学校区は地域活動と密接につながっており、学区を変更することが地域にも大きな影響を与えると考えますが、中学校区については、既に、複数の小学校区が合同で関わっているので、学区の変更が与える影響は少ないのではないかと思います。小学校と中学校は別の考え方をしたほうがいいのではないかと考えます。

○財政計画

令和6年6月末作成時点で、数値をfixして財政計画を立てることは、調整計画からの変化をみるという意味では、妥当なことであると思います。

物価高騰への影響額も厳しめにみているのかなという印象をもちました。

一方で、既に見えてきている、人件費の増や、入札不調への心配もあり、時代の変化のスピードがたいへん速くなっているので、財政計画については、大きな変化があったときには、5年間放置するより、その都度修正していくほうが、現実的ではないかと思います。